

つながりを取り戻す コミュニティスペースのデザイン

1 目的・概要

本プロジェクトは、新型コロナウイルス感染症によって失われた地域コミュニティを取り戻すため、コミュニティスペースのデザインの方法を学習し、実践することを目的としています。

コミュニティスペース（以下、CS）とは、地域の人々が交流することを目的として作られている場所のことで、カフェ、イベントスペース、多目的スペースなど様々な形で存在しています。

コロナウイルス感染拡大後、地域活動は停止しただけでなく、住民間での立ち話のような交流も激減してしまいました。

そこで、本プロジェクトでは「CSをデザインすることで以前のような交流文化を再生させ、活気ある地域コミュニティを復活させること」を目標としました。

また、本授業にとどまらない継続的な活動を起こし、より大きな影響を与えるため「履修生がCSの作り方の知識を獲得し活動していくとともに、周囲に拡げていくこと」を目標としました。



Annual Schedule

2021年	4月	動画・事例からデザインの論理的な思考を学ぶ
	5月	教室内でデモンストレーションを行う
	6月	大学内でCSを運営
	7月	まちづくりプラザ、TAMALIBA、からほり訪問
	8月	YAOMON 京都、801 広場、京都市景観・まちづくりセンター訪問
	9月	京都市内を中心にフィールドワークを行う
	10月	出町でフィールドワークを行う
	11月	榊形商店街にてアンケートを実施
	12月	「Co たつ cation」を2ヶ所で運営、実施イベントの振り返り
2022年	1月	秋学期報告会

2 成果達成度

春学期

「実践」

CS のデザインについて学び、3 班で分かれて、自分たちが思う CS を運営してみました。身近なところから変化を起こそうと思い、学内で運営しました。先生や実際に CS を運営している方を招き、評価・改善点を指摘していただきました。

氷扇風機班： 大学生の自粛疲れを癒すため、木陰に大きな氷を置きました。隣で運営陣がうちわを使って涼くさせ、その中でコミュニケーションが生まれました。

友カクテル班： ノンアルコールカクテルを提供することで楽しい雰囲気を作り出すとともに、質問シートで会話の促進を図りました。

ふかまる班： 自己紹介カードを書き、それを回すことで親睦を深めるきっかけとしました。また、ボードゲームを設置し、ゲームをしながら楽しむことができました。



秋学期

秋学期は春学期の実践を踏まえてメンバー全員で学外に出て、CS を実施しました。地域課題の解決に資するため、榊形商店街と北野商店街の 2 ヲ所で運営しました。

「Co たつ cation」

この CS の名称は設置されたこたつとそこで発生する communication から着想しました。

目的はコロナ禍で失われた地域の繋がりを取り戻すこと、地域活動に興味を持つ人を増やすことの 2 点です。

心地よい団らんを通じて来訪者の間に交流を生むことを狙って「フリーこたつ」を設置しました。また、空間・時間を超えた心理的繋がりを生むために、来訪者が自由に描き足すことの出来る白紙の絵本を提供しました。

榊形商店街

2 日間運営しました。1 日目は 15 名、2 日目は 21 名いらっしゃいました。

イベントでは、普段は商店街に来ないという学生から「今回のイベントでちょっとその辺（榊形商店街）で買ってみようかなと思った」との声を聞けました。また、奥さんに付き添われて来た認知症の方は「普段は地域イベントのお呼びがかからないから、いかない」とおっしゃっていて、適当な場を提供できたようです。地域の方にも学生にもつながりを感じていただけるイベントになりました。

榊形商店街（De まち）で開催したところ、北野商店街のフリーマーケットに参加してほしいとのお声がかかりました。

北野商店街

こちらも 2 日間運営しました。来場者は 1 日目 40 人、2 日目 39 人に上りました。

北野では、地域イベントを開催したいと思っていた方とフリーマーケットの主催者をつなげることが出来ました。また、地元の高校生が地域の方と交流する機会にもなるなど、広がりのあるイベント



になりました。

今回のイベントで、我々は2つの目標を達成することが出来ました。榊形商店街と北野商店街を合わせて116名の方にお越しいただきました。また、我々のイベントを参考にした他大生が、違う商店街で地域イベントを開催してくれました。

3 プロジェクトを通じて

1年間を通して活動した中で、我々は「地域に根ざした企画立案の重要性」と「プロジェクトの進め方」を学びました。

我々の活動は地域の方々との密接な関係があって初めて成功します。そのため独りよがりな企画にならないよう地域の方々の現状を伺ったり、活動を受け入れていただけるよう関係を構築する必要がありました。実際に、地域の憩いの喫茶店であるYAOMONで出町の方々と交流し、たくさんの応援を頂くことができました。

また、プロジェクトを進めることの難しさを実感しました。1つの企画には多様な要素が含まれており、それを分担して進める際に様々な困難に遭遇しました。しかし企画を重ねることで、プロジェクトをより円滑に進めることができるようになりました。

1年間を通して、我々は地域コミュニティの可能性にたくさん触れることができました。本授業で身に付けたプロジェクト実行のスキルを生かし、今後もまちづくりに寄与する活動を通じて、地域コミュニティの活性化を目指していきたいです。



編集後記

私たちはこの1年間で地域の方との交流やグループワーク、フィールドワークを通してCSという手段から地域活性化へのきっかけをつくりました。そこから得た学びを活かして、今後も地域支援を行っていきたいと考えています。

私自身、就活との両立が難しい場面もありましたが、プロジェクトメンバーのおかげで完遂することができました。

最後になりましたが、非常に充実した経験をさせてくださった科目代表者の立木先生、科目担当者の大田先生、平本先生、萩原さん、SAの千葉さん、そして「Co たつ cation」にお越しくくださった方々、その他全ての関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

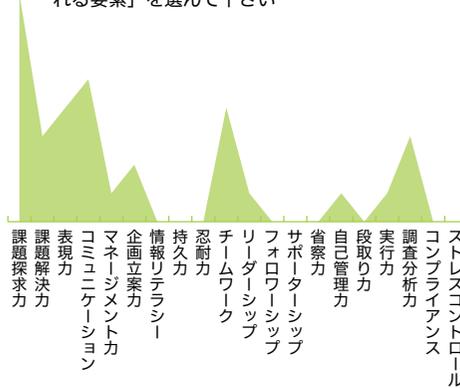
プロジェクトメンバー

西山 夢花(文2) 浅井 裕子(社会3) 金 佳賢(社会2) 森川 夏希(法2) 能村 咲紀(法2) 井原 結衣(経済2)
中尾 太紀(経済2) 松崎 圭佑(商2) 宗 佳弘(商2)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

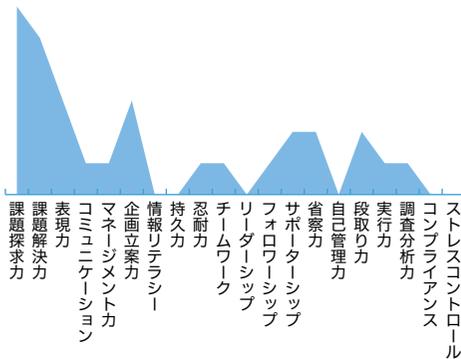
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

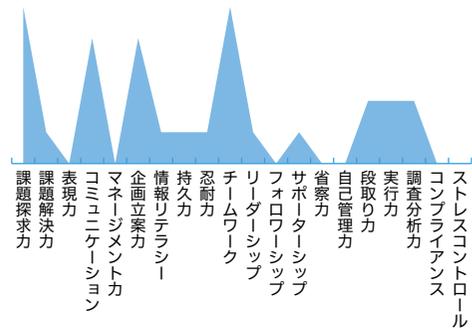


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

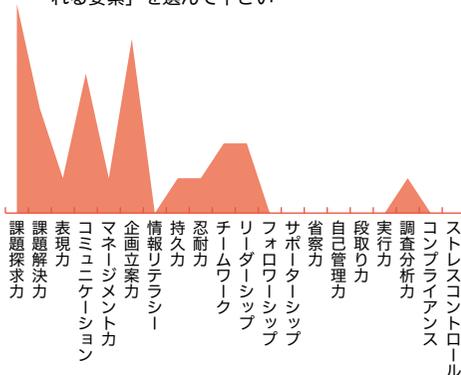


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

